



JFP リファレンスマニュアル 1: ユーザーコマンド



Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No: 817-1784-11
2006年11月

Sun Microsystems, Inc. (以下米国 Sun Microsystems 社とします) は、本書に記述されている製品に含まれる技術に関連する知的財産権を所有します。特に、この知的財産権はひとつかそれ以上の米国における特許、あるいは米国およびその他の国において申請中の特許を含んでいることがあります。ただし、それらに限定されるものではありません。

U.S. Government Rights Commercial software. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

この配布には、第三者によって開発された素材を含んでいることがあります。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company, Ltd. が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。フォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品に含まれる HG-MinchoL、HG-MinchoL-Sun、HG-PMinchoL-Sun、HG-GothicB、HG-GothicB-Sun、および HG-PGothicB-Sun は、株式会社リコーがリコービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。HeiseiMin-W3H は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun、Sun Microsystems、Solaris のロゴマーク、Solaris のロゴマーク、Java Coffee Cup のロゴマーク、docs.sun.com、JumpStart、Solaris Web Start、Power Management、Sun ONE Application Server、Solaris Flash、Solaris Live Upgrade、Java および Solaris は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標、登録商標もしくは、サービスマークです。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

Wnn は、京都大学、株式会社アステック、オムロン株式会社で共同開発されたソフトウェアです。

Wnn8 は、オムロン株式会社、オムロンソフトウェア株式会社で共同開発されたソフトウェアです。Copyright(C) OMRON Co., Ltd. 1995-2006. All Rights Reserved. Copyright(C) OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1995-2006. All Rights Reserved.

「ATOK for Solaris」は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、「ATOK for Solaris」にかかる著作権、その他の権利は株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

「ATOK」および「推測変換」は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。

「ATOK for Solaris」に添付するフェイスマーク辞書は、株式会社ビレッジセンターの許諾のもと、同社が発行する『インターネット・パソコン通信フェイスマークガイド』に添付のものを使用しています。

「ATOK for Solaris」に含まれる郵便番号辞書(7桁/5桁)は日本郵政公社が公開したデータを元に制作された物です(一部データの加工を行なっています)。

Unicode は、Unicode, Inc. の商標です。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPEN LOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは、OPEN LOOK のグラフィカル・ユーザインタフェースを実装するか、またはその他の方法で米国 Sun Microsystems 社との書面によるライセンス契約を遵守する、米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

本書で言及されている製品や含まれている情報は、米国輸出規制法で規制されるものであり、その他の国の輸出入に関する法律の対象となる場合があります。核、ミサイル、化学あるいは生物兵器、原子力の海洋輸送手段への使用は、直接および間接を問わず厳しく禁止されています。米国が禁輸の対象としている国や、限定はされませんが、取引禁止顧客や特別指定国民のリストを含む米国輸出排除リストで指定されているものの輸出および再輸出は厳しく禁止されています。

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の事前の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

目次

はじめに	5
序章	9
Intro_jfp(1)	10
ユーザーコマンド	15
ATOK(1)	16
atok(1)	17
atok12(1)	18
atok12migd(1)	19
atok12migs(1)	22
atokx2cvtool(1)	23
auto_ef(1)	26
cs00toatok(1)	29
euctoibmj(1)	32
euctojis(1)	34
euctosj(1)	36
evftobdf(1)	38
ibmjtoeuc(1)	39
jistoec(1)	41
jistosj(1)	43
jpostprint(1)	45
jprconv(1)	48
jtops(1)	50
jtty(1)	52
kanji(1)	53
kkcvtoes00(1)	54

sjtoeuc(1)	56
sjtojis(1)	58
uum(1)	60
wnn(1)	61
Wnn6(1)	62
Wnn8(1)	63
wnn8(1)	64
wnnatod(1)	65
wnndictutil(1)	66
wnndtoa(1)	67
wnnenvutil(1)	68
wnnotow(1)	69
wnnstat(1)	70
wnnsysenv_client(1)	72
wnntouch(1)	73
xatokx2cvttool(1)	74

はじめに

概要

SunOS リファレンスマニュアルは、初めて SunOS を使用するユーザーやすでにある程度の知識を持っているユーザーのどちらでも対応できるように解説されています。このマニュアルを構成するマニュアルページは一般に参照マニュアルとして作られており、チュートリアルな要素は含んでいません。それぞれのコマンドを実行すると、どのような結果が得られるかについて、詳しく説明されています。なお、各マニュアルページの内容はオンラインでも参照することができます。

このマニュアルは、マニュアルページの内容によっていくつかのセクションに分かれています。各セクションについて以下に簡単に説明します。

- セクション 1 は、オペレーティングシステムで使えるコマンドを説明します。
- セクション 1M は、システム保守や管理用として主に使われるコマンドを説明します。
- セクション 2 は、すべてのシステムコールについて説明します。ほとんどのシステムコールに 1 つまたは複数のエラーがあります。エラーの場合、通常ありえない戻り値が返されます。
- セクション 3 は、さまざまなライブラリ中の関数について説明します。ただし、UNIX システムプリミティブを直接呼び出す関数については、セクション 2 で説明しています。
- セクション 4 は、各種ファイルの形式について説明します。また、ファイル形式を宣言する C 構造体を適用できる場合には随時説明しています。
- セクション 5 は、文字セットテーブルなど他のセクションには該当しないものについて説明します。
- セクション 7 は、特殊なハードウェア周辺装置またはデバイスドライバに関するさまざまな特殊ファイルについて説明します。STREAMS ソフトウェアドライバ、モジュール、またはシステムコールの STREAMS 汎用セットについても説明します。
- セクション 9 は、カーネル環境でデバイスドライバを記述するのに必要な参照情報を提供します。ここでは、デバイスドライバインタフェース (DDI) とドライバ/カーネルインタフェース (DKI) という 2 つのデバイスドライバインタフェース仕様について説明します。

- セクション9Fは、デバイスドライバが使用できるカーネル関数について説明します。

以下に、このマニュアルの項目を表記されている順に説明します。ほとんどのマニュアルページが下記の項目からなる共通の書式で書かれていますが、必要でない項目については省略されています。たとえば、記述すべきバグがコマンドにない場合などは、「使用上の留意点」という項目はありません。各マニュアルページの詳細は各セクションの `intro` を、マニュアルページの一般的な情報については `man(1)` を参照してください。

名前 コマンドや関数の名称と概略が示されています。

形式 コマンドや関数の構文が示されています。標準パスにコマンドやファイルが存在しない場合は、フルパス名が示されます。字体は、コマンド、オプションなどの定数にはボールド体 (**bold**) を、引数、パラメータ、置換文字などの変数にはイタリック体 (*Italic*) または <日本語訳> を使用しています。オプションと引数の順番は、アルファベット順です。特別な指定が必要な場合を除いて、1文字の引数、引数のついたオプションの順に書かれています。

以下の文字がそれぞれの項目で使われています。

- [] このかっこに囲まれたオプションや引数は省略できます。このかっこが付いていない場合には、引数を必ず指定する必要があります。
- ... 省略符号。前の引数に変数を付けたり、引数を複数指定したりできることを意味します (例: `'filename...'`)。
- | 区切り文字 (セパレータ)。この文字で分割されている引数のうち1つだけを指定できます。
- { } この大かっこに囲まれた複数のオプションや引数は省略できます。かっこ内を1組として扱います。

プロトコル この項が使われているのは、プロトコルが記述されているファイルを示すサブセクション3Rだけです。パス名は常にボールド体 (**bold**) で示されています。

機能説明 コマンドの機能とその動作について説明します。実行時の詳細を説明していますが、オプションの説明や使用例はここでは示されていません。対話形式のコマンド、サブコマンド、リクエスト、マクロ、関数などに関しては「使用法」で説明します。

IOCTL セクション7だけに使用される項です。 `ioctl(2)` システムコールへのパラメータは `ioctl` と呼ばれ、適切なパラメータを持つデバイスクラスのマニュアルページだけに記載されています。特定のデバイスに関する `ioctl` は、(そのデバイスのマニュアルページに) アルファベット順に記述されています。デバイスの特定のク

	<p>ラスに関する <code>ioctl</code> は、<code>mtio(7I)</code> のように <code>io</code> で終わる名前が付いているデバイスクラスのマニュアルページに記載されています。</p>
オプション	<p>各オプションがどのように実行されるかを説明しています。「形式」で示されている順に記述されています。オプションの引数はこの項目で説明され、必要な場合はデフォルト値を示します。</p>
オペランド	<p>コマンドのオペランドを一覧表示し、各オペランドがコマンドの動作にどのように影響を及ぼすかを説明しています。</p>
出力	<p>コマンドによって生成される出力 (標準出力、標準エラー、または出力ファイル) を説明しています。</p>
戻り値	<p>値を返す関数の場合、その値を示し、値が返される時の条件を説明しています。関数が <code>0</code> や <code>-1</code> のような一定の値だけを返す場合は、値と説明の形で示され、その他の場合は各関数の戻り値について簡単に説明しています。void として宣言された関数はこの項では扱いません。</p>
エラー	<p>失敗の場合、ほとんどの関数はその理由を示すエラーコードを <code>errno</code> 変数の中に設定します。この項ではエラーコードをアルファベット順に記述し、各エラーの原因となる条件について説明します。同じエラーの原因となる条件が複数ある場合は、エラーコードの下にそれぞれの条件を別々のパラグラフで説明しています。</p>
使用法	<p>この項では、使用する際の手がかりとなる説明が示されています。特定の決まりや機能、詳しい説明の必要なコマンドなどが示されています。組み込み機能については、以下の小項目で説明しています。</p>
	<p>コマンド 修飾子 変数 式 入力文法</p>
使用例	<p>コマンドや関数の使用例または使用方法を説明しています。できるだけ実際に入力するコマンド行とスクリーンに表示される内容を例にしています。例の中には必ず <code>example%</code> のプロンプトが出てきます。スーパーユーザーの場合は <code>example#</code> のプロンプトになります。例では、その説明、変数置換の方法、戻り値が示され、それらのほとんどが「形式」、「機能説明」、「オプション」、「使用法」の項からの実例となっています。</p>
環境	<p>コマンドや関数が影響を与える環境変数を記述し、その影響について簡単に説明しています。</p>

終了ステータス	コマンドが呼び出しプログラムまたはシェルに返す値と、その状態を説明しています。通常、正常終了には0が返され、0以外の値はそれぞれのエラー状態を示します。
ファイル	マニュアルページが参照するファイル、関連ファイル、およびコマンドが作成または必要とするファイルを示し、各ファイルについて簡単に説明しています。
属性	属性タイプとその対応する値を定義することにより、コマンド、ユーティリティ、およびデバイスドライバの特性を一覧しています。詳細は <code>attributes(5)</code> を参照してください。
関連項目	関連するマニュアルページ、当社のマニュアル、および一般の出版物が示されています。
診断	エラーの発生状況と診断メッセージが示されています。メッセージはボールド体 (bold) で、変数はイタリック体 (<i>Italic</i>) または <日本語訳> で示されており、Cロケール時の表示形式です。
警告	作業に支障を与えるような現象について説明しています。診断メッセージではありません。
注意事項	それぞれの項に該当しない追加情報が示されています。マニュアルページの内容とは直接関係のない事柄も参照用に扱っています。ここでは重要な情報については説明していません。
使用上の留意点	すでに発見されているバグについて説明しています。可能な場合は対処法も示しています。

参照
序章

名前	Intro_jfp, intro_jfp - JFP コマンドおよびアプリケーションプログラムの序章
機能説明	本セクションでは、JFP が提供する コマンドについてアルファベット順に説明します。
その他のセクションについて	<p>詳細は、『JFP リファレンスマニュアル』の各セクションを参照してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ JFP システム管理のコマンドについては、本マニュアルのセクション 1M を参照してください。 ■ JFP ファイルの形式については、本マニュアルのセクション 4 を参照してください。 ■ 公式に使用できる JFP ファイルやさまざまな情報については、本マニュアルのセクション 5 を参照してください。
マニュアルページのコマンドの構文	特に説明しないかぎり、マニュアルページの「形式」の項で記述されるコマンドは、以下の構文に従ってオプションやその他の引数を受け付けます。そして、以下のように解釈されなければなりません。

name [-option...] [*cmdarg*...]

[] 必須ではない *option* (オプション) や *cmdarg* (引数) を囲みます。

... *option* (オプション) や *cmdarg* (引数) が複数回発生することを意味します。

name 実行可能ファイルの名前です。

{ } 中括弧で囲まれた、オプションまたは引数 (および両方) は独立しており、括弧内のすべてを 1 つの単位として扱わなければなりません。

option (常に“-”が先行します。) *noargletter*... または、*argletter optarg*[...]

noargletter 引数が必要ないオプション 1 文字を表します。複数の *noargletter* を指定する場合、1 つの“-”の後にまとめて指定できます (後述のルール 5)。

argletter 引数が必要なオプション 1 文字を表します。

optarg *argletter* に必要なオプション引数 (文字列) です。複数の *optargs* を *argletter* に指定する場合、コンマで区切る、または、タブか空白文字で区切って引用符で囲まなければなりません (後述のルール)。

cmdarg “-” で始まらないパス名 (または他のコマンドの引数)。“-”だけを指定すると標準入力を表します。

コマンド構文規格: ルール

ここで説明するコマンド構文のルールは、既存のコマンドすべてに適用されているわけではありません。しかし、新規のコマンドはすべてこのルールに従う予定です。すべてのシェルプロシージャは `getopts(1)` を使って、定位置パラメタを構文解

析し、オプションが合法かどうかチェックしなければなりません。getopts(1)は、以下に説明するルール3から10までをサポートします。その他の規則については、コマンド自身がチェックしなければなりません。

1. コマンド名(上記の *name*)は、2文字から9文字までの長さでなければなりません。
2. コマンド名は、小文字と数字だけで構成されなければなりません。
3. オプション名(上記の *option*)は、1文字でなければなりません。
4. オプションには“-”が先行しなければなりません。
5. 引数なしのオプションは、1つの“-”の後に複数個まとめて指定できます。
6. オプションとオプションの最初の引数(上記の *optarg*)の間は、タブか空白文字で区切らなければなりません。
7. オプションの引数は、必ず指定しなければなりません。
8. オプションに複数のオプションの引数が続く場合、それぞれをコンマで区切る、または、タブか空白文字で区切って引用符で囲まなければなりません(たとえば、`-o xxx,z,yy` や `-o "xxx z yy"` など)。
9. コマンド行上では、オプションはオペランド(上記の *cmdarg*)より前に指定しなければなりません。
10. “--”を使って、オプションの終わりを示すことができます。
11. オプションの相対的な順番は問題になりません。
12. オペランド(上記の *cmdarg*)の相対的な順番は、その位置によって、コマンドが決めた意味に影響します。
13. “-”の前後に空白文字を指定した場合(“-”だけを指定した場合)、標準入力を表します。

属性 このセクション中にリストされている属性については `attributes(5)` のマニュアルページを参照してください。

関連項目 `getopts(1)`, `wait(1)`, `exit(2)`, `getopt(3C)`, `attributes(5)`

診断 終了時、すべてのコマンドは状態を表す2バイトを返します。1つは、システムから提供され、終了の原因を示します。もう1つ(正常な終了においては)、プログラムから提供されます(`exit(2)`を参照)。前のバイトが0の場合、正常な終了を表します。後のバイトが0の場合、正常な実行を表します。後のバイトがゼロでない場合、間違った引数を指定した、または不良で受け入れることができないデータを指定したなどの障害を示します。このバイトは、「終了コード」、「終了状態」、「リターンコード」などさまざまな呼ばれ方をします。そして、特別な使い方がある場合に限って説明されます。

警告 ヌル文字を含むファイル进行处理しているときに、予測していなかった結果を出すコマンドがあります。通常このようなコマンドはテキスト入力行を文字列として扱っているため、行中のヌル文字(つまり文字列の終端)に出会うと混乱してしまうからです。

コマンド一覧	名前	説明
	Intro_jfp(1)	JFP コマンドおよびアプリケーションプログラムの序章
	atok(1)	ATOK for Solaris 日本語入力システム
	atokx2cvtttool(1)	ATOK for Solaris 環境移行支援ツール (CUI版)
	xatokx2cvtttool(1)	ATOK for Solaris 環境移行支援ツール (GUI版)
	atok12(1)	ATOK12 日本語入力システム
	atok12migd(1)	ATOK8 から ATOK12 への辞書移行コマンド
	atok12migs(1)	ATOK8 から ATOK12 へのスタイル設定移行
	atok12setup(1)	ATOK12 を X 環境で使用する日本語入力システムにする
	cs00toatok(1)	cs00 ユーザー辞書から ATOK ユーザー辞書への変換
	euctoibmj(1)	日本語 EUC、IBM 日本語コード間のコード変換
	euctojis(1)	jistoeduc(1) を参照
	euctosj(1)	jistoeduc(1) を参照
	evftobdf(1)	evfont から X11 BDF 2.1 フォーマットへの変換
	ibmjtoeduc(1)	euctoibmj(1) を参照
	jistoeduc(1)	JIS、PC 漢字、日本語 EUC 間のコード変換
	jistosj(1)	jistoeduc(1) を参照
	jpostprint(1)	日本語 PostScript プリンタに日本語テキストを出力するためのフィルタ
	jprconv(1)	ドットマトリックス漢字プリンタ、日本語ページプリンタで日本語テキストを印刷するためのフィルタ
	jtops(1)	Sun LaserWriter または日本語 PostScript プリンタに日本語ファイルを出力するためのフィルタ
	jtty(1)	TTY/STREAMS に対する日本語処理環境の設定または変更
	kanji(1)	漢字コードの一覧表を表示

<code>kkcvtoacs00(1)</code>	kkcv ユーザー辞書から cs00 ユーザー辞書への変換
<code>sdtudctool(1)</code>	Solaris 外字ツール
<code>sdtudc_convert(1)</code>	ユーザー定義文字変換ユーティリティ
<code>sdtudc_extract(1)</code>	ユーザー定義文字変換ユーティリティ
<code>sdtudc_extract_ps(1)</code>	ユーザー定義文字変換ユーティリティ
<code>sdtudc_register(1)</code>	ユーザー定義文字辞書登録用中間ユーティリティ
<code>sjtoeuc(1)</code>	jistoeuc(1) を参照
<code>sjtojis(1)</code>	jistoeuc(1) を参照
<code>uum(1)</code>	かな漢字変換フロントエンドプロセッサ
<code>wnnatod(1)</code>	テキスト形式辞書からバイナリ形式辞書への変換
<code>wnndictutil(1)</code>	辞書ユーティリティ
<code>wnndtoa(1)</code>	バイナリ形式辞書からテキスト形式辞書への変換
<code>wnnenvutil(1)</code>	環境設定ユーティリティ
<code>wnnotow(1)</code>	ユーザー辞書コンバータ
<code>wnnstat(1)</code>	かな漢字変換サーバーの状態を表示する
<code>wnn8(1)</code>	Wnn8 日本語入力システム
<code>wnntouch(1)</code>	ファイルのヘッダーを書き換えて i ノードと合わせる
<code>xjsi(1)</code>	Wnn6 かな漢字変換サーバー/htt インタフェースモジュール

参照
ユーザーコマンド

名前	atok, ATOK – ATOK for Solaris 日本語入力システム
Description	ATOK for Solaris は、デスクトップ環境で日本語を入力するための手段を提供します。詳細は ATOK パレットからヘルプを参照してください。

名前	atok, ATOK – ATOK for Solaris 日本語入力システム
Description	ATOK for Solaris は、デスクトップ環境で日本語を入力するための手段を提供します。詳細は ATOK パレットからヘルプを参照してください。

名前	atok12 - ATOK12 日本語入力システム
形式	atok12
機能説明	ATOK12 日本語入力システムは本リリースから ATOK for Solaris 日本語入力システムにバージョンアップされました。詳細は ATOK for Solaris の ATOK パレットから起動されるヘルプや『ATOK for Solaris ユーザーズガイド』を参照してください。ATOK8、ATOK12 で使用していたユーザーの辞書や設定を ATOK for Solaris に移行するには <code>atokx2cvttool(1)</code> コマンドもしくは <code>xatokx2cvttool(1)</code> GUI ツールを使用します。詳細は <code>atokx2cvttool(1)</code> のマニュアルページを参照してください。

名前 atok12migd - ATOK8 から ATOK12 への辞書移行コマンド

形式 **atok12migd** [-h *part_of_speech*] *atok8_dic atok12_dic*

使用条件 JSatsvu

機能説明 atok12migd は、ATOK8 の辞書の内容を ATOK12 の辞書にマージします。ユーザーによって登録された単語だけが、ATOK12 の辞書にマージされます。ATOK8 システム提供時に辞書に含まれていた単語はマージされません。マージ元の ATOK8 の辞書の中身は、マージ処理によって破壊されたり変更されたりしません。

オプション **-h *part_of_speech*** 品詞指定。品詞を指定することにより、マージする単語を限定することができます。品詞は ATOK8 の品詞番号で指定してください。複数の品詞を指定する場合は + で区切ってください。all を指定した場合には、すべての品詞の単語がマージの対象となります。

例:

```
1
2+3
3+4+8+9
all
```

ATOK8
の品詞番号

番号	名前
1	一般名詞
2	固有人名
3	固有地名
4	固有組織
5	固有一般
6	名詞サ変
7	名詞ザ変
8	名詞形動
9	独立語
10	単漢字

番号	名前
11	連体詞
12	接続詞
13	感動詞
14	接頭語
15	接尾辞
16	数詞
17	カ行五段
18	ガ行五段
19	サ行五段
20	タ行五段
21	ナ行五段
22	ハ行五段
23	バ行五段
24	マ行五段
25	ラ行五段
26	ワ行五段
27	一般動詞
28	カ変動詞
29	サ変動詞
30	ザ変動詞
31	形容詞
32	形容動詞
33	副詞

atok8_dic ATOK8 の辞書。

atok12_dic ATOK12 の辞書。

環境

`LANG,` `atok12migd` は `LC_CTYPE` カテゴリがロケール `ja` またはそれと同等なロケールに指定されている場合に限り動作します。上記の環境変数の使用方法については、`environ(5)` を参照してください。

終了ステータス	次の終了値を返します。 0 正常終了 1 理解できないオプション 127 その他のエラー
ファイル	/usr/bin/atok12migd ATOK8 から ATOK12 への辞書移行コマンド
関連項目	environ(5)、atokx2cvtttool(1) 『日本語入力方式の概要と移行』 『ATOK for Solaris ユーザーズガイド』
注意事項	SIGTERM シグナルをこのプロセスに送ると終了します。 atok12migd は、ファイル名や内容に EUC コードセット 3 の文字を含むファイルを扱うことができません。

名前	atok12migs - ATOK8 から ATOK12 へのスタイル設定移行
形式	atok12migs [-k -r] <i>atok8_ucf</i> <i>atok12_sty</i>
使用条件	JSatsvu
機能説明	<p>atok12migs コマンドは、<i>atok8_ucf</i>で指定された ATOK8 環境設定ファイル内の機能のキーへの割り当てとローマ字変換の設定内容を、ATOK12 で使用される形式に変換し、<i>atok12_sty</i>で指定された ATOK12 スタイルファイルに出力します。</p> <p><i>atok12_sty</i> が既に存在する場合も、その内容は参照されません。既存の <i>atok12_sty</i> は、変換結果によって上書きされます。</p>
オプション	<p>以下のオプションを指定できます。</p> <p>-k 機能のキーへの割り当てに関する設定内容だけを変換します。ローマ字に関する設定内容は、ATOK12 のデフォルトが使用されます。</p> <p>-r ローマ字に関する設定内容だけを変換します。機能のキーへの割り当てに関する設定内容は、ATOK12 のデフォルトが使用されます。</p>
オペランド	<p>以下のオペランドを指定できます。</p> <p><i>atok8_ucf</i> ATOK8 環境設定ファイル</p> <p><i>atok12_sty</i> 出力先 ATOK12 スタイルファイル</p>
環境	<p>LANG, atok12migs は LC_CTYPE カテゴリがロケール ja またはそれと同等のロケールに指定されている場合に限り動作します。上記の環境変数の使用方法については、<i>environ(5)</i> を参照してください。</p>
終了ステータス	<p>次の終了値を返します。</p> <p>0 正常終了</p> <p>1 理解できないオプション</p> <p>127 その他のエラー</p>
ファイル	/usr/bin/atok12migs ATOK8 から ATOK12 へのスタイル設定移行コマンド
関連項目	<p><i>environ(5)</i>、<i>atokx2cvtttool(1)</i></p> <p>『日本語入力方式の概要と移行』</p> <p>『ATOK for Solaris ユーザーズガイド』</p>

名前	atokx2cvtttool – ATOK for Solaris 環境移行支援ツール (CUI版)
形式	
ATOK12から引き継ぐ	<code>/usr/bin/atokx2cvtttool -a -u user [-o path_to_directory] [-i on off] [-k on off] [-d all main off]</code>
ATOK8から引き継ぐ	<code>/usr/bin/atokx2cvtttool -8 [-k on off] [-d all main off]</code>
機能説明	<p>ATOK12 および ATOK8 の次の設定および辞書を ATOK for Solaris へ引き継ぎます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 入力および変換の設定 (ATOK12 のみ) ■ キーおよびローマ字の設定 ■ 辞書 (基本辞書セットのみ、またはすべての辞書セット) <p>実行時にオプションで、引き継ぐ対象について指定します。</p>
オプション	<p>ATOK8 の指定</p> <p>-8 ATOK8から引き継ぐ場合に必ず指定します。</p> <p>対象ユーザーの設定</p> <p>ATOK12から引き継ぐ場合は、必ず -a また -u のどちらかを指定します。ATOK8 から引き継ぐ場合は指定できません。</p> <p>-a ATOK12 のユーザーデータが存在するすべてのユーザーを、引き継ぎの対象にします。</p> <p>-u <i>user</i> 引き継ぐATOK12のユーザーを指定します。OSに登録されているユーザーを指定できます。複数のユーザーを指定する場合、-u をユーザーの数だけを指定します。</p> <p> 例: -u taro -u hanako</p> <p>引き継ぎ元ファイルのパスの設定 (ATOK8 から引き継ぐ場合は指定できません。)</p> <p>-o <i>path_to_directory</i> 引き継ぐATOK12 の辞書ファイルや設定ファイルのあるディレクトリを指定します(省略時: /var/locale/ja/atokserver/users) 。</p> <p>引き継ぐ内容の設定 (ATOK8 から引き継ぐ場合は、-i は指定できません)</p> <p>-i on off ATOK12 の入力変換の設定を引き継ぐか引き継がないかを指定します (省略時: on) 。</p> <p> on 引き継ぐ</p> <p> off 引き継がない</p>

-k on off	キーとローマ字の設定を引き継ぐか引き継がないかを指定します (省略時 off)。 on 引き継ぐ off 引き継がない
-d all main off	引き継ぐ辞書を指定します (省略時 : main)。 all すべての辞書セットの辞書を引き継ぐ main 基本辞書セットの辞書を引き継ぐ off 辞書を引き継がない

キーとローマ字の設定

キーとローマ字の設定を引き継いでも、ATOK for Solaris で追加された機能については、キーカスタマイズの設定は行われません。

- ATOK12 から
ATOK12 で [現在のスタイル] に設定されていたスタイルが対象となります。スタイル名は「旧スタイル名 (ATOK12)」となり、ATOK for Solaris の現在のスタイルに設定されます。
- ATOK8 から
スタイル名は「converted (ATOK8)」となり、ATOK for Solaris の現在のスタイルに設定されます。

辞書

- ATOK12 から
ATOK12 の辞書セットのユーザー辞書が ATOK17 の辞書にコンバートされ、ATOK for Solaris の辞書セットのユーザー辞書として設定されます。また、辞書セットに設定されていた ATOK12 の補助辞書が ATOK17 の辞書にコンバートされ、ATOK for Solaris の辞書セットに追加されます
- ATOK8 から
ATOK8 の辞書に登録されているユーザー登録単語が、ATOK for Solaris の辞書セットのユーザー辞書に登録されます。

環境

- ATOK12 から
root ユーザーで実行します。
- ATOK8 から
引き継ぎたいユーザーで実行します。

ファイル

/usr/bin/atokx2cvtttool

終了ステータス

以下の終了ステータスが返されます。

- 0 正常終了
- >0 エラーが発生した

関連項目 xatokx2cvtttool(1)、 atok12migs(1)、 atok12migd(1)

名前 auto_ef – Auto encoding finder

形式 `/usr/bin/auto_ef [-e encoding_list] [-a] [-l level] [file ...]`

`/usr/bin/auto_ef -h`

機能説明

The auto_ef utility identifies the encoding of given file. It judges the encoding by using the iconv code conversion, esp., by using the fact that whether a certain code conversion was successful or not with the file, and also doing frequency analyses on the character sequences appear in the file.

ASCII	(ASCII)
ISO-2022-JP	(JIS)
eucJP	(Japanese EUC)
PCK	(Japanese PC Kanji, CP932, Shift JIS)
UTF-8	(UTF-8)
ko_KR.euc	(Korean EUC)
ko_KR.cp949	(Unified Hangul)
ISO-2022-KR	(ISO-2022 Korean)
zh_CN.iso2022-CN	(ISO-2022 CN/CN-EXT)
zh_CN.euc	(Simplified Chinese EUC, GB2312)
GB18030	(Simplified Chinese GB18030/GBK)
zh_TW-big5	(BIG5)
zh_TW-euc	(Traditional Chinese EUC)
zh_TW.hkscs	(Hong Kong BIG5)
iso-8859-1	(West European, etc)
iso-8859-2	(East European, etc)
iso-8859-5	(Cyrillic, etc)
iso-8859-6	(Arabic)
iso-8859-7	(Greek)
iso-8859-8	(Hebrew)
CP1250	(windows-1250, corresponding to ISO-8859-2)
CP1251	(windows-1251, corresponding to ISO-8859-5)
CP1252	(windows-1252, corresponding to ISO-8859-1)

CP1253	(windows-1253, corresponding to ISO-8859-7)
CP1255	(windows-1255, corresponding to ISO-8859-8)
koi8-r	(corresponding to iso-8859-5)

By default `auto_ef` returns a single, most possible encoding for text in specified file. To get all possible encodings for the file, use `-a` option.

Also by default, `auto_ef` uses the most fastest process to examine the file. To get more accurate result, use `-l` option.

`-e encoding_list` can be used when you want to make `auto_ef` examine data with limited set of encodings.

オプション

The following options are supported:

`-h`

Show usage message.

`-e encoding_list`

Make `auto_ef` examine data only with specified encodings. For example, when specified "`ko_KR.euc:ko_KR.cp949`" as *encoding_list*, `auto_ef` examines text only with CP949 and `ko_KR.euc`. Without this option, `auto_ef` examines text with the all encodings. Multiple encodings can be specified by separating encodings using colon.

`-a`

Show all possible encodings in order of possibility, with scores in range between 0.0 and 1.0. Higher score means higher possibility. For example,

```
% auto_ef -a test_file
eucJP          0.89
zh_CN.euc      0.40
ko_KR.euc      0.01
```

Without this option, only one encoding with the highest score is shown.

`-l level`

Specify the level of judgment. Value of level can be 0, 1, 2, or 3. Level 3 produces best result but can be slow. Level 0 is fastest but result can be less accurate than in higher levels. Default is level 0.

オペランド

The following operands are supported:

file File name to examine

使用例

例 1 examine encoding of file.

```
% auto_ef file
```

例 1 examine encoding of file. (続き)

例 2 examine encoding of file at level 2.

```
% auto_ef -l 2 file
```

例 3 examine encoding of file with only eucJP or ko_KR.euc

```
auto_ef -e "eucJP:ko_KR.euc" file
```

終了ステータス 0 Successful completion

1 An error occurred.

属性 See `attributes(5)` for descriptions of the following attributes:

ATTRIBUTE TYPE	ATTRIBUTE VALUE
Interface Stability	Stable with exception
Availability	SUNWautoef

関連項目 [libauto_ef\(3LIB\)](#), [auto_ef\(3AUTO_EF\)](#), [国際化対応言語環境の利用ガイド](#)

注意事項 Interface stability of output format, when option `-a` is specified, is Evolving. Other interfaces are Stable.

名前	cs00toatok - cs00 ユーザー辞書から ATOK ユーザー辞書への変換
形式	cs00toatok [<i>filename</i> ...]
使用条件	SUNWjfpu
機能説明	<p>cs00toatok は、cs00 のユーザー辞書に登録されている単語を ATOK12 上で利用するために、cs00 の単語リストファイルの形式から ATOK の辞書ユーティリティで利用できるテキスト形式の単語ファイルへ変換するフィルタです。</p> <p>cs00toatok は <i>filename</i> に指定されたファイルを読み込みます。 <i>filename</i> が与えられなければ、標準入力からファイルを読み込みます。そのファイルの内容は、cs00 の単語リストファイルの形式である必要があります。cs00toatok は、ATOK の辞書ユーティリティで利用できるテキスト形式の単語ファイルを標準出力に出力します。cs00toatok は個々の単語を次の規則に従って変換します。</p> <p>読み、単 単語の読みの文字種および長さ、単語（表記）の文字種および長さを語（表記） 変更しません。</p> <p>品詞 変換元の単語の品詞を次に示す表に従って変換します。</p>

cs00 における品詞		ATOK における品詞	
:N1	名詞 1	1	一般名詞
:N2	名詞 2	1	一般名詞
:M1	人名 1	2	固有人名
:M2	人名 2	2	固有人名
:T1	地名 1	3	固有地名
:T2	地名 2	3	固有地名
:NM	数詞	16	数詞
:NN	助数詞	15	接尾辞
:PR	接頭詞	14	接頭語
:SF	接尾詞	15	接尾辞
:AD	副詞	33	副詞
:CN	接続詞	12	接続詞
:RT	連体詞	11	連体詞
:AJ	形容詞	31	形容詞
:AV	形容動詞	32	形容動詞

:SH	サ変動詞	6	名詞サ変
:ZH	ザ変動詞	7	名詞ザ変
:1V	一段活用動詞	27	一段動詞
:KV	カ行五段活用動詞	17	カ行五段
:GV	ガ行五段活用動詞	18	ガ行五段
:SV	サ行五段活用動詞	19	サ行五段
:TV	タ行五段活用動詞	20	タ行五段
:NV	ナ行五段活用動詞	21	ナ行五段
:BV	バ行五段活用動詞	23	バ行五段
:MV	マ行五段活用動詞	24	マ行五段
:RV	ラ行五段活用動詞	25	ラ行五段
:WV	ワ行五段活用動詞	26	ワ行五段
:UN	分類不可	-	-
:TK	単漢字	10	単漢字
:BS	文節	-	-

:UN「分類不可」、:BS「文節」の品詞をもつ単語はデフォルトでは出力されませんが、-a オプションを指定して出力できます。また、変換元の単語が複数の品詞をもつ場合、cs00toatokはその個々の品詞をもつ独立した複数の単語に変換します。

オプション

-a デフォルトで出力される単語に加えて、品詞が「分類不可」または「文節」である単語を品詞未定として出力します。

注意事項

cs00toatokは、読み、単語(表記)に対しては一切変更しません。したがって、ATOK辞書に登録する場合は次の点に注意してください。

- 単語の読みの文字種および長さ、単語(表記)の文字種および長さによっては、ATOK辞書には登録できない場合があります。
- 単語の表記の両端が「」(全角の単一引用符)または「”””(全角の二重引用符)であると、ATOK辞書には両端の文字が取り除かれて登録されます。
- 単語の表記に「、」(全角のコンマ)が含まれていると、ATOK辞書には登録できません。

ATOK辞書へ登録するにはATOK12辞書ユーティリティを使用します。詳細は、『ATOK12ユーザーズガイド』を参照してください。

関連項目 atok12(1), atok12wordlist(4)

名前	euctoibmj, ibmjtoeuc - 日本語 EUC、IBM 日本語コード間のコード変換
形式	euctoibmj [-t] [-u <i>code</i>] [-U] [<i>filename</i> ...] ibmjtoeuc [-u <i>code</i>] [-U] [<i>filename</i> ...]
使用条件	SUNWjfpu
Description	euctoibmj は、指定された <i>filename</i> のファイルの内容を ASCII/日本語 EUC から EBCDIC/IBM 日本語コードに変換します。ibmjtoeuc は、指定された <i>filename</i> のファイルの内容を EBCDIC/IBM 日本語コードから ASCII/日本語 EUC に変換します。これらのコマンドはいずれも変換結果を標準出力 (stdout) に出力します。 <i>filename</i> が指定されない場合には、標準入力から読み込まれます。 日本語をハンドルする場合、euctoibmj および ibmjtoeuc コマンドは、日本語 EUC および IBM-Japanese 間の変換のみを行います。日本語 EUC、JIS、および PC 漢字間のコード変換は、 jistoeuc(1) ファミリまたは iconv(1) によってサポートされません。
Options	-u <i>code</i> このオプションが指定されると、印字文字に変換されないコードは、euctoibmj の場合、4 桁の 16 進数 <i>code</i> を使って指定された IBM 日本語コード (Host Code) に変換され、ibmjtoeuc の場合、4 桁の 10 進数 <i>code</i> で指定された JIS 区点コードに対応する日本語 EUC コードに変換されます。このオプションが指定されない場合、IBM 日本語コード (Host Code) として 4040、JIS 区点コードとして 0101 が採用されます。 -U 出力はバッファリングされません (デフォルトではバッファリングされます)。 -t このオプションが指定されると、euctoibmj は、入力中のコードセット 2 のカタカナをコードセット 1 の対応するカタカナにあらかじめ変換して処理します。このオプションが指定されない場合、コードセット 2 のカタカナは不正なコードとして処理されます。
Environment Variables	euctoibmj および ibmjtoeuc の実行時には、環境変数 LC_CTYPE または LANG が、ja またはこれと同等な日本語ロケールに設定されていなくてはなりません。環境変数はこの順番で調べられ、有効なロケールの設定が検知された段階でロケールが決定されます。
Files	/usr/lib/jcodetables/ibmj-euc IBM 日本語コード用コード変換テーブル
See Also	iconv(1) , jistoeuc(1) , iconv_ja(5)
Diagnostics	unexpected data encountered in input. 入力ファイル中に不正なコードが存在します。

Bugs

ASCII/EBCDIC の変換テーブルは 1968 年 11 月版 CACM の 256 文字標準に基づいています。ibm 変換は、標準的ではありませんが、ある種の IBM 印字トレーンの規約に適合しています。すべての場合に満足できるような解決方法はありません。

日本語 EUC と IBM 日本語コード間の変換テーブルは、JIS X 0201、JIS X 0208-1983、および IBM 漢字コード一覧表 (第 4 版、1987 年 9 月) に基づいています。

JIS X 0212 文字集合が入力された場合、euctoibmj は変換を正しく行えません。

名前	jistoeuc, jistosj, euctojis, euctosj, sjtojis, sjtoeuc – JIS、PC 漢字、日本語 EUC 間のコード変換
形式	jistoeuc [-8] [-U] [<i>filename...</i>] jistosj [-8] [-U] [<i>filename...</i>] euctojis [-8] [-U] [<i>filename...</i>] euctosj [-U] [<i>filename...</i>] sjtojis [-8] [-U] [<i>filename...</i>] sjtoeuc [-U] [<i>filename...</i>]
使用条件	SUNWjfpu
Description	<p>本コマンド群は、異なるコード規格の文字セットを相互に変換します。コマンド名 [<i>filename...</i>] は、指定されたファイルの内容に対して指定された変換を行い、標準出力に書き出します。</p> <p>ファイルを指定しないと、標準入力から文字を読み取り、変換します。</p> <p>jistoeuc JIS から日本語 EUC への変換 jistosj JIS から PC 漢字への変換 euctojis 日本語 EUC から JIS への変換 euctosj 日本語 EUC から PC 漢字への変換 sjtojis PC 漢字から JIS への変換 sjtoeuc PC 漢字から日本語 EUC への変換</p>
Options	-8 jistoeuc、jistosj、sjtojis、sjtoeuc は、SI/SO を使わず、8 単位系 JIS で JIS X 0201 文字集合を処理、あるいはこれに変換します。 -U 出力はバッファリングされません (デフォルトではバッファリングされます)。
See Also	iconv(1), iconv_ja(5)
Notes	<p>jistoeuc では、文字集合指示エスケープ・シーケンスとして以下を処理することができます。</p> <p>JIS X 0208 指示 - \E\$B、\E\$(B、\E\$@ JIS X 0212 指示 - \E\$(D JIS X 0201 Roman 指示 - \E(J、\E(H ASCII 指示 - \E(B</p>

sjtojis、euctojisは文字集合指示エスケープ・シーケンスとして以下を出力しません。

JIS X 0208 指示 - \E\$B

JIS X 0212 指示 - \E\$(D(sjtojisでは表示されません)

JIS X 0201 Roman 指示 - \E(J

本コマンドは、原則として入力ファイル中の各コードが正しいかどうかの確認は行いません。また PC 漢字との相互変換においては「TOG 日本ベンダ協議会推奨日本語 EUC・シフト JIS 間コード変換仕様」に基づくコード変換は行われません。iconv(1)ユーティリティがこれらの機能を提供します。iconv(1)およびiconv_ja(5)を参照してください。

Bugs

JIS X 0212 文字集合が入力された場合、jistosj および euctosj は変換を正しく行えません。euctosj、sjtoeuc、jistosj、sjtojis については、JIS X 0208 1 区 - 84 区だけが変換の対象になります。

名前	jistoeuc, jistosj, euctojis, euctosj, sjtojis, sjtoeuc – JIS、PC 漢字、日本語 EUC 間のコード変換
形式	jistoeuc [-8] [-U] [<i>filename...</i>] jistosj [-8] [-U] [<i>filename...</i>] euctojis [-8] [-U] [<i>filename...</i>] euctosj [-U] [<i>filename...</i>] sjtojis [-8] [-U] [<i>filename...</i>] sjtoeuc [-U] [<i>filename...</i>]
使用条件	SUNWjfpu
Description	<p>本コマンド群は、異なるコード規格の文字セットを相互に変換します。コマンド名 [<i>filename...</i>] は、指定されたファイルの内容に対して指定された変換を行い、標準出力に書き出します。</p> <p>ファイルを指定しないと、標準入力から文字を読み取り、変換します。</p> <p>jistoeuc JIS から日本語 EUC への変換 jistosj JIS から PC 漢字への変換 euctojis 日本語 EUC から JIS への変換 euctosj 日本語 EUC から PC 漢字への変換 sjtojis PC 漢字から JIS への変換 sjtoeuc PC 漢字から日本語 EUC への変換</p>
Options	<p>-8 jistoeuc、jistosj、sjtojis、sjtoeuc は、SI/SO を使わず、8 単位系 JIS で JIS X 0201 文字集合を処理、あるいはこれに変換します。</p> <p>-U 出力はバッファリングされません (デフォルトではバッファリングされます)。</p>
See Also	iconv(1), iconv_ja(5)
Notes	<p>jistoeuc では、文字集合指示エスケープ・シーケンスとして以下を処理することができます。</p> <p>JIS X 0208 指示 - \E\$B、\E\$(B、\E\$@ JIS X 0212 指示 - \E\$(D JIS X 0201 Roman 指示 - \E(J、\E(H ASCII 指示 - \E(B</p>

sjtojis、euctojis は文字集合指示エスケープ・シーケンスとして以下を出力しません。

JIS X 0208 指示 - \E\$B

JIS X 0212 指示 - \E\$(D(sjtojis では表示されません)

JIS X 0201 Roman 指示 - \E(J

本コマンドは、原則として入力ファイル中の各コードが正しいかどうかの確認は行いません。また PC 漢字との相互変換においては「TOG 日本ベンダ協議会推奨日本語 EUC・シフト JIS 間コード変換仕様」に基づくコード変換は行われません。iconv(1)ユーティリティがこれらの機能を提供します。iconv(1) および iconv_ja(5) を参照してください。

Bugs

JIS X 0212 文字集合が入力された場合、jistosj および euctosj は変換を正しく行えません。euctosj、sjtoeuc、jistosj、sjtojis については、JIS X 0208 1 区 - 84 区だけが変換の対象になります。

名前	evftobdf - evfont から X11 BDF 2.1 フォーマットへの変換
形式	evftobdf [-t] [-p <i>propertyfile</i>] <i>filename...</i>
使用条件	SUNWjfpu
機能説明	evftobdf は、X11/NeWS ウィンドウシステムで使用するフォントを作成するために使用し、evfont フォントフォーマットから X11 BDF 2.1 フォントフォーマットへ変換します。
オプション	<p>-t BDF フォントからプロパティ部分を抽出して標準出力に出力します。フォントのフォーマット変換は行いません。この場合、指定するファイル名のファイルは BDF フォーマット にする必要があります。evf には出力する evfont のファイル名を指定します。</p> <p>-p BDF のプロパティ部分を <i>propertyfile</i> から取り込みます。1 つの <i>propertyfile</i> <i>propertyfile</i> の中に 2 つの文字セットのプロパティを定義することができます。この場合、各文字セットは、{と} のブロックで区切られます。</p>

名前	euctoibmj, ibmjtoeuc - 日本語 EUC、IBM 日本語コード間のコード変換	
形式	euctoibmj [-t] [-u <i>code</i>] [-U] [<i>filename</i> ...] ibmjtoeuc [-u <i>code</i>] [-U] [<i>filename</i> ...]	
使用条件	SUNWjfpu	
Description	<p>euctoibmj は、指定された <i>filename</i> のファイルの内容を ASCII/日本語 EUC から EBCDIC/IBM 日本語コードに変換します。ibmjtoeuc は、指定された <i>filename</i> のファイルの内容を EBCDIC/IBM 日本語コードから ASCII/日本語 EUC に変換します。これらのコマンドはいずれも変換結果を標準出力 (stdout) に出力します。<i>filename</i> が指定されない場合には、標準入力から読み込まれます。</p> <p>日本語をハンドルする場合、euctoibmj および ibmjtoeuc コマンドは、日本語 EUC および IBM-Japanese 間の変換のみを行います。日本語 EUC、JIS、および PC 漢字間のコード変換は、jistoec(1) ファミリまたは iconv(1) によってサポートされません。</p>	
Options	-u <i>code</i>	このオプションが指定されると、印字文字に変換されないコードは、euctoibmj の場合、4桁の 16進数 <i>code</i> を使って指定された IBM 日本語コード (Host Code) に変換され、ibmjtoeuc の場合、4桁の 10進数 <i>code</i> で指定された JIS 区点コードに対応する日本語 EUC コードに変換されます。このオプションが指定されない場合、IBM 日本語コード (Host Code) として 4040、JIS 区点コードとして 0101 が採用されます。
	-U	出力はバッファリングされません (デフォルトではバッファリングされます)。
	-t	このオプションが指定されると、euctoibmj は、入力中のコードセット 2 のカタカナをコードセット 1 の対応するカタカナにあらかじめ変換して処理します。このオプションが指定されない場合、コードセット 2 のカタカナは不正なコードとして処理されます。
Environment Variables	euctoibmj および ibmjtoeuc の実行時には、環境変数 LC_CTYPE または LANG が、ja またはこれと同等な日本語ロケールに設定されていなくてはなりません。環境変数はこの順番で調べられ、有効なロケールの設定が検知された段階でロケールが決定されます。	
Files	/usr/lib/jcodetables/ibmj-euc IBM 日本語コード用コード変換テーブル	
See Also	iconv(1) , jistoec(1) , iconv_ja(5)	
Diagnostics	unexpected data encountered in input. 入力ファイル中に不正なコードが存在します。	

Bugs

ASCII/EBCDIC の変換テーブルは 1968 年 11 月版 CACM の 256 文字標準に基づいています。ibm 変換は、標準的ではありませんが、ある種の IBM 印字トレーンの規約に適合しています。すべての場合に満足できるような解決方法はありません。

日本語 EUC と IBM 日本語コード間の変換テーブルは、JIS X 0201、JIS X 0208-1983、および IBM 漢字コード一覧表 (第 4 版、1987 年 9 月) に基づいています。

JIS X 0212 文字集合が入力された場合、euctoibmj は変換を正しく行えません。

名前	jistoec, jistosj, euctojis, euctosj, sjtojis, sjtoec – JIS、PC 漢字、日本語 EUC 間のコード変換												
形式	jistoec [-8] [-U] [<i>filename...</i>] jistosj [-8] [-U] [<i>filename...</i>] euctojis [-8] [-U] [<i>filename...</i>] euctosj [-U] [<i>filename...</i>] sjtojis [-8] [-U] [<i>filename...</i>] sjtoec [-U] [<i>filename...</i>]												
使用条件	SUNWjfpu												
Description	<p>本コマンド群は、異なるコード規格の文字セットを相互に変換します。コマンド名 [<i>filename...</i>] は、指定されたファイルの内容に対して指定された変換を行い、標準出力に書き出します。</p> <p>ファイルを指定しないと、標準入力から文字を読み取り、変換します。</p> <table border="0"> <tr> <td>jistoec</td> <td>JIS から日本語 EUC への変換</td> </tr> <tr> <td>jistosj</td> <td>JIS から PC 漢字への変換</td> </tr> <tr> <td>euctojis</td> <td>日本語 EUC から JIS への変換</td> </tr> <tr> <td>euctosj</td> <td>日本語 EUC から PC 漢字への変換</td> </tr> <tr> <td>sjtojis</td> <td>PC 漢字から JIS への変換</td> </tr> <tr> <td>sjtoec</td> <td>PC 漢字から日本語 EUC への変換</td> </tr> </table>	jistoec	JIS から日本語 EUC への変換	jistosj	JIS から PC 漢字への変換	euctojis	日本語 EUC から JIS への変換	euctosj	日本語 EUC から PC 漢字への変換	sjtojis	PC 漢字から JIS への変換	sjtoec	PC 漢字から日本語 EUC への変換
jistoec	JIS から日本語 EUC への変換												
jistosj	JIS から PC 漢字への変換												
euctojis	日本語 EUC から JIS への変換												
euctosj	日本語 EUC から PC 漢字への変換												
sjtojis	PC 漢字から JIS への変換												
sjtoec	PC 漢字から日本語 EUC への変換												
Options	<p>-8 jistoec、jistosj、sjtojis、sjtoec は、SI/SO を使わず、8 単位系 JIS で JIS X 0201 文字集合を処理、あるいはこれに変換します。</p> <p>-U 出力はバッファリングされません (デフォルトではバッファリングされます)。</p>												
See Also	iconv(1), iconv_ja(5)												
Notes	<p>jistoec では、文字集合指示エスケープ・シーケンスとして以下を処理することができます。</p> <p>JIS X 0208 指示 - \E\$B、\E\$(B、\E\$@ JIS X 0212 指示 - \E\$(D JIS X 0201 Roman 指示 - \E(J、\E(H ASCII 指示 - \E(B</p>												

sjtojis、euctojis は文字集合指示エスケープ・シーケンスとして以下を出力しません。

JIS X 0208 指示 - \E\$B

JIS X 0212 指示 - \E\$(D (sjtojis では表示されません)

JIS X 0201 Roman 指示 - \E(J

本コマンドは、原則として入力ファイル中の各コードが正しいかどうかの確認は行いません。また PC 漢字との相互変換においては「TOG 日本ベンダ協議会推奨日本語 EUC・シフト JIS 間コード変換仕様」に基づくコード変換は行われません。iconv(1)ユーティリティがこれらの機能を提供します。iconv(1) および iconv_ja(5) を参照してください。

Bugs

JIS X 0212 文字集合が入力された場合、jistosj および euctosj は変換を正しく行えません。euctosj、sjtoeuc、jistosj、sjtojis については、JIS X 0208 1 区 - 84 区だけが変換の対象になります。

名前	jistoeuc, jistosj, euctojis, euctosj, sjtojis, sjtoeuc – JIS、PC 漢字、日本語 EUC 間のコード変換
形式	jistoeuc [-8] [-U] [<i>filename...</i>] jistosj [-8] [-U] [<i>filename...</i>] euctojis [-8] [-U] [<i>filename...</i>] euctosj [-U] [<i>filename...</i>] sjtojis [-8] [-U] [<i>filename...</i>] sjtoeuc [-U] [<i>filename...</i>]
使用条件	SUNWjfpu
Description	<p>本コマンド群は、異なるコード規格の文字セットを相互に変換します。コマンド名 [<i>filename...</i>] は、指定されたファイルの内容に対して指定された変換を行い、標準出力に書き出します。</p> <p>ファイルを指定しないと、標準入力から文字を読み取り、変換します。</p> <p>jistoeuc JIS から日本語 EUC への変換 jistosj JIS から PC 漢字への変換 euctojis 日本語 EUC から JIS への変換 euctosj 日本語 EUC から PC 漢字への変換 sjtojis PC 漢字から JIS への変換 sjtoeuc PC 漢字から日本語 EUC への変換</p>
Options	<p>-8 jistoeuc、jistosj、sjtojis、sjtoeuc は、SI/SO を使わず、8 単位系 JIS で JIS X 0201 文字集合を処理、あるいはこれに変換します。</p> <p>-U 出力はバッファリングされません (デフォルトではバッファリングされます)。</p>
See Also	iconv(1), iconv_ja(5)
Notes	<p>jistoeuc では、文字集合指示エスケープ・シーケンスとして以下を処理することができます。</p> <p>JIS X 0208 指示 - \E\$B、\E\$(B、\E\$@ JIS X 0212 指示 - \E\$(D JIS X 0201 Roman 指示 - \E(J、\E(H ASCII 指示 - \E(B</p>

sjtojis、euctojis は文字集合指示エスケープ・シーケンスとして以下を出力しません。

JIS X 0208 指示 - \E\$B

JIS X 0212 指示 - \E\$(D (sjtojis では表示されません)

JIS X 0201 Roman 指示 - \E(J

本コマンドは、原則として入力ファイル中の各コードが正しいかどうかの確認は行いません。また PC 漢字との相互変換においては「TOG 日本ベンダ協議会推奨日本語 EUC・シフト JIS 間コード変換仕様」に基づくコード変換は行われません。iconv(1)ユーティリティがこれらの機能を提供します。iconv(1) および iconv_ja(5) を参照してください。

Bugs

JIS X 0212 文字集合が入力された場合、jistosj および euctosj は変換を正しく行えません。euctosj、sjtoeuc、jistosj、sjtojis については、JIS X 0208 1 区 - 84 区だけが変換の対象になります。

名前	jpostprint - 日本語 PostScript プリンタに日本語テキストを出力するためのフィルタ
形式	jpostprint [-c <i>number</i>] [-f <i>name</i>] [-l <i>number</i>] [-m <i>number</i>] [-n <i>number</i>] [-o <i>list</i>] [-p <i>mode</i>] [-r <i>number</i>] [-s <i>number</i>] [-t <i>number</i>] [-x <i>number</i>] [-y <i>number</i>] [-u <i>path</i>] [<i>filename...</i>] /usr/lib/lp/postscript/jpostprint
使用条件	SUNWjfpu
機能説明	jpostprint は、標準入力から日本語文字を読み込み、日本語 PostScript に変換して標準出力に書き出します。入力ファイルを指定しない場合、あるいは - が入力ファイルとして指定された場合は、標準入力から読み取ります。入力文字コードに UDC (ユーザー定義文字)、JIS X 0212、IBM 拡張文字、あるいは NEC 選定 IBM 拡張文字が含まれている場合、これらのフォントも出力します。その他の文字の場合はプリンタ側のフォントを使用します。UDC は sdtudctool(1) により作成します。JIS X 0212、IBM 拡張文字、あるいは NEC 選定 IBM 拡張文字を出力するには、SUNWjcs3f パッケージが別に必要です。
オプション	-c 各ページのコピー枚数を指定します。デフォルトは 1 枚です。 <i>number</i> -f <i>name</i> 印刷に使用するフォントを指定します。以下を指定することにより、JIS X 0208、JIS X 0201 カタカナ文字集合のフォントが変更できます。 Ryumin-Light (Ryumin-Light-H と同じ) Ryumin-Light-H GothicBBB-Medium (GothicBBB-Medium-H と同じ) GothicBBB-Medium-H Ryumin-Light-V GothicBBB-Medium-V ASCII 部分のフォントは、次のフォントも使用できます。 JIS X 0201 Ryumin-Light.Hankaku ローマ文 字集合 GothicBBB-Medium.Hankaku 英文 Courier フォント LucidaSans-Typewriter 同時に指定する場合は、次のように + を間に入れます。 GothicBBB-Medium.Hankaku+GothicBBB-Medium

デフォルトは、ASCII 部分は Courier、JIS X 0208 と JIS X 0201 のカタカナ部分は Ryumin-Light-H です。なお、JIS X 0212、VDC (ベンダー定義文字)、および UDC のフォントは変更できません。

- l**
number 1 ページの行数を指定します。デフォルトは 66 行です。0 を設定すると、jpostprint は使用しているフォントのポイントサイズに従って適当なページ数を設定します。
- m**
number *number* を指定して、論理ページを拡大します。ページは、ページの左上を原点として均一に拡大縮小されます。デフォルトは、1.0 です。
- n**
number 1 ページあたり *number* 個の論理ページで印刷します。*number* は自然数です。デフォルトは 1 です。
- o** *list* *list* で指定した範囲のページを印刷します。*list* はページ番号 N と範囲 N1-N2 で構成されます。N1 が指定されないときは最初のページから、N2 が指定されないときは最後のページまでと認識されます。ページ範囲は、物理ページではなく論理ページ単位で指定します。たとえば、物理ページ 1 ページあたりの論理ページが 2 のとき、*list* として 4 ページまでを指定すると (-4)、実際には 2 ページの紙が出力されます。
- p** *mode* 縦長 (ポートレートモード) か横長 (ランドスケープモード) かを指定します。*mode* の最初の文字が p の場合には縦長、1 の場合には横長になります。デフォルトは縦長です。これは物理ページでなく、論理ページに対して指定します。たとえば、論理ページ 2 のときの縦長出力は、物理ページでは横長出力になります。
- r**
number '\r' の動きを制御します。*number* が 0 なら無視、1 ならカラムを行頭に戻し、2 なら改行とみなします。デフォルトは 0 です。
- s**
number *number* のポイントサイズでファイルを出力します。横長の場合は、*number* がデバイスの表示領域によって調整されます。縦長出力時のデフォルトサイズは 10 です。ポイントサイズを大きくすると、表示されるイメージの大きさが拡大します。したがって、ポイントサイズを大きくする場合には、より大きな紙を使うか、-10 オプションで 1 ページあたりの行数を調整する必要があります。
- t**
number タブが最初のカラムから *number* カラムごとにセットされているとみなします。デフォルトは 8 カラムごとです。
- x**
number x 軸に沿って原点を *number* インチ移動します。デフォルトの座標系の原点はページの左上付近から、右に x の正方向上に y の正方向をとりまします。デフォルト値は 0.25 インチです。
- y**
number y 軸に沿って原点を *number* インチ移動します。デフォルトは -0.25 インチです。
- u** *path* UDC フォントのある *path* を指定します。デフォルトは
\$HOME/.Xlocale/locale/fonts/UDC/Type1/UDCxx.pfa、jpostprint.conf

ファイルの `fontpath udc` の内容の順に調べます。

新しい論理ページは 66 行目を出力したあとか、`\f` 文字を読み込んだあとから始まります。1 ページの行数は `-l` オプションを使って変更できます。非出力文字は無視されます。

使用例 `file1` と `file2` を横長で出力するには、次のコマンドを実行します。

```
example% jpostprint -pland file1 file2
```

論理ページ 2 で印刷するには、次のコマンドを実行します。

```
example% jpostprint -n2 file
```

UDC フォントとして `/usr/local/UDC` ディレクトリにある `UDC1.pfa` から `UDC20.pfa` のいずれかを使用するときには、次のコマンドを実行します。

```
example% jpostprint -u "/usr/local/UDC/UDC%d.pfa"
```

環境 このコマンドを実行する場合には、ロケールを `ja`、`ja_JP.eucJP`、`ja_JP.PCK`、または `ja_JP.UTF-8` に設定する必要があります。

ファイル `/usr/lib/lp/postscript/forms.ps`
`/usr/lib/lp/postscript/jpostprint.ps`
`/usr/lib/lp/postscript/jpostprint.conf`

関連項目 [jtops\(1\)](#), [postprint\(1\)](#), [sdtudctool\(1\)](#), [lpfilter\(1M\)](#)

注意事項 `-n` オプションで出力した PostScript ファイルは、印刷時のみ正しく表示します。UDC フォントは `sdtudctool` が出力する Type1 フォントのみ、JIS X 0212 フォントは `SUNWjcs3f` に含まれる Type1 フォントのみ対応します。

なお、UTF-8 の場合、UDC に関しては 6400 文字まで対応し、その他は日本語 EUC で表現できる文字のみ対応します。

名前 jprconv - ドットマトリックス漢字プリンタ、日本語ページプリンタで日本語テキストを印刷するためのフィルタ

形式 **jprconv** [-T *terminfo*] [-r]
/usr/lib/lp/text/jprconv

使用条件 SUNWjfpu

機能説明 jprconv は、ドットマトリックス漢字プリンタ (EPSON VP-5085、NEC PC-PR201)、または日本語ページプリンタ (Canon LASERSHOT) を使用して日本語テキストを印刷するためのフィルタです。各プリンタのコントロールコードは次の通りです。

データベース	コントロールコード
EPSON VP-5085	EPSON ESC/P の ESC/P24-J84
NEC PR201	NEC 201PL
Canon LASERSHOT	LIPS に準拠したコントロールコード

上記のコントロールコードをサポートしていれば、他のプリンタでも日本語テキストを印刷できます。

jprconv は、標準入力から日本語文字を読み込み、各コントロールコードに変換して標準出力に書き出します。ユーザー定義文字、JIS X 0212、IBM 拡張文字、あるいは NEC 選定 IBM 拡張文字が入力文字コードに含まれている場合、これらのフォントも出力します。その他の文字の場合はプリンタ側のフォントを使用します。

ユーザー定義文字は sdtudctool を使用して作成します (sdtudctool(1) 参照)。また、JIS X 0212、IBM 拡張文字、あるいは NEC 選定 IBM 拡張文字を出力するには、さらに SUNWjcs3f パッケージが必要です。

オプション

- T *terminfo* データベースを指定します。次のいずれかを必ず指定する必要があります。
 - canon-ls-408 LIPS 形式の場合
 - nec-pr201 NEC 201PL 形式の場合
 - epson-vp5085 ESC/P24-J84 形式の場合
- r 出力時に NL を CR-NL に変換しません。デフォルトは変換します。

使用例 *file1* を ESC/P24-J84 形式で出力するには、次のようにします。

```
example% jprconv -T epson-vp5085 < file1
```

環境 このコマンドを実行する場合には、ロケールを ja、ja_JP.PCK、または ja_JP.UTF-8 に設定する必要があります。

ファイル	<code>/usr/lib/lp/text/jprconv.conf</code> <code>/usr/share/lib/terminfo/e/epson-vp5085</code> <code>/usr/share/lib/terminfo/n/nec-pr201</code> <code>/usr/share/lib/terminfo/c/canon-ls-a408</code>
関連項目	<code>jtops(1)</code> , <code>jpostprint(1)</code> , <code>sdtudctool(1)</code> , <code>lpfilter(1M)</code> 『日本語環境ユーザーズガイド』
注意事項	通常、 <code>jprconv</code> はプリンタサーバー側でフィルタとして使用されるため、 <code>jprconv</code> コマンドを直接使用する必要はありません。プリンタサーバー側の設定方法は『日本語環境ユーザーズガイド』を参照してください。 <code>ja_JP.UTF-8</code> ロケールでは日本語文字のみ印刷可能です。

名前	jtops - Sun LaserWriter または日本語 PostScript プリンタに日本語ファイルを出力するためのフィルタ
形式	jtops [-12rRjJvwWmg] [-l <i>n</i>] [-s <i>size</i>] [-f <i>font</i>] [<i>filename...</i>]
使用条件	SUNWjfpu
機能説明	<p>jtops は、標準入力から日本語文字を読み込み、Sun Laser Writer に出力するためにプリンタ側の漢字フォントを使う日本語 PostScript に変換して、標準出力に書き出します。</p> <p>入力ファイルを指定しない場合は、標準入力ファイルから読み取ります。</p> <p>特に指定のない場合、フォントサイズ 10、1 ページあたり 66 行で縦型に出力します。</p> <p>コマンド行で指定されているオプションを調べる前に、環境変数 JTOPS に設定されている文字列をオプションとして解釈し、設定します。</p>
オプション	<p>-1 1 カラム出力 (デフォルト値)</p> <p>-2 2 カラム出力</p> <p>-r 横型出力 (rotate)</p> <p>-R 縦型出力 (don't rotate) (デフォルト値)</p> <p>-v printer 側の漢字フォントを使います (日本語 PostScript プリンタ対応、デフォルト値)。</p> <p>-l <i>n</i> 1 ページあたりの行数を指定します。デフォルト値は、66 行です。</p> <p>-m 日本語フォントとして明朝体を使います (デフォルト値)。</p> <p>-g 日本語フォントとしてゴシック体を使います。英字フォントとしては、-f オプションで指定しない限り、Courier-Bold を使います。</p> <p>-f <i>font</i> 英字フォントを指定します。デフォルトには、-g オプションが指定されていない場合には Courier が、指定されている場合には Courier-Bold が使用されます。</p> <p>-s <i>size</i> フォントサイズを <i>size</i> に指定します。フォントサイズを指定した場合、1 ページあたりに出力される行数は、次のように設定されます。</p> <p style="padding-left: 40px;">縦型: 720 / (fontsize + 1) 横型: 550 / (fontsize + 1)</p>

- j 英数字フォントとして日本語フォントの半角英数部分を使います。
- J 英数字フォントとして Courier を使います (デフォルト値)。
- W 英数フォントが可変幅の場合を除いて、英数字と日本語の割合を 1:2 にします (デフォルト値)。
- w 英数字と日本語の割合を調整しません。

使用例

```
example% jtops -j -140 -s11 filename | lpr
example% pr -1120 filename | jtops -1120 -s5 | lpr
example% jtops -2r filename | lpr
```

環境

このコマンドを実行する場合には、ロケールを ja、ja_JP.EucJP、ja_JP.PCK、あるいは ja_JP.UTF-8 に設定する必要があります。

関連項目

expand(1), lp(1), pr(1), lpr(1B), lpfilter(1M)

注意事項

jtops は以下の文字セットのみ対応します。

- JIS X 0201 ローマ文字用図形キャラクタ集合
- JIS X 0201 カタカナ用図形キャラクタ集合
- JIS X 0208

名前	jty - TTY/STREAMS に対する日本語処理環境の設定または変更
形式	jty [-c <i>y</i> <i>n</i>] [-i <i>c</i>] [-o <i>c</i>]
使用条件	SUNWjfpu
機能説明	<p>jty は現在使用している TTY/STREAMS の日本語処理環境の値を変更します。引数をつけなければ、現在使用している TTY/STREAMS の日本語処理環境の値を返します。</p> <p>現在、日本語処理環境として定義されているのは JIS コードの漢字インおよび漢字アウト・シーケンスの 3 文字目と、コード変換を行うかどうかの選択だけです。</p>
オプション	<p>-c <i>y n</i> <i>y</i> を指定すると、現在プッシュされているコード変換モジュールに対してコード変換を行うよう指示します。<i>n</i> を指定すると、コード変換を行わないよう指示します。</p> <p>-i <i>c</i> コード変換の際に用いる JIS の漢字イン・シーケンスの 3 文字目を <i>c</i> に変更します。</p> <p>-o <i>c</i> コード変換の際に用いる JIS の漢字アウト・シーケンスの 3 文字目を <i>c</i> に変更します。</p>
関連項目	stty(1), jaiio(7I)

名前	kanji - 漢字コードの一覧表を表示
形式	kanji [-j] [-s] [-e] [-k] [-K <i>n</i>] [-HK <i>n</i>] [-h]
使用条件	SUNWjfpu
機能説明	kanji は、現在のロケールにおいて印字可能な文字を表形式で表示します。 オプションなしで起動した場合は、現在のロケールで使われているエンコーディング番号と共に表形式で出力します。
オプション	<ul style="list-style-type: none"> -j JIS コード番号を付けてすべての文字を出力します。 -s PC 漢字コード番号を付けてすべての文字を出力します。このオプションは ja 相当のロケールでのみ有効です。 -e 日本語 EUC を付けてすべての文字を出力します。このオプションは ja_JP.PCK 相当のロケールでのみ有効です。 -k JIS 区点番号を付けてすべての文字を出力します。 -K <i>n</i> ja 相当のロケールでは、JIS X 0208 文字セットの <i>n</i> 区の文字だけを一覧にして表示します。ja_JP.PCK 相当のロケールでは、印字可能文字セットの <i>n</i> 区の文字だけを一覧にして表示します。 -HK <i>n</i> JIS X 0212 文字セットの <i>n</i> 区の文字だけを一覧にして表示します。このオプションは ja 相当のロケールでのみ有効です。 -h ヘルプメッセージを出力します。
関連項目	PCK(5), eucJP(5)

名前	kkcvtocs00 – kkcvc ユーザー辞書から cs00 ユーザー辞書への変換
形式	kkcvtocs00 [<i>filename</i> ...]
使用条件	SUNWjfpu
機能説明	<p>kkcvtocs00 は、JLE のかな漢字変換システム kkcvc のユーザー辞書単語を JFP のかな漢字変換システムの 1 つである cs00 でも利用しようとする場合に使用するユーティリティです。kkcvtocs00 はフィルタとして使用されます。<i>filename</i> で指定されたファイルが入力対象となります。<i>filename</i> を省略すると、標準入力が入力対象となります。変換結果は標準出力に出力されます。入力対象のファイルは kkcvdicedit が扱うことのできる「自立語ファイル」の形式でなければなりません。「自立語ファイル」の形式は行に対して定められており、kkcvtocs00 はこの形式に従わない行を発見するとエラーメッセージを画面に出力してその行を無視します。</p>
使用例	<p>例1 ユーザー辞書からの cs00 ユーザー辞書の作成例</p> <p>kkcvc ユーザー辞書から cs00 ユーザー辞書を作成するには次の手順で行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. JLE システム上であらかじめ kkcvc のユーザー辞書から自立語ファイルを作成しておきます。 <pre>JLE% kkcvdicedit extract kkcvc_u.dic kkcvc_u.list</pre> 2. 次に、この自立語ファイルを JFP システム上で udicm 用の単語リストファイルに変換します。 <pre>JFP% kkcvtocs00 kkcvc_u.list > cs00_u.list</pre> 3. 最後に、この単語リストファイルから cs00 ユーザー辞書を作成します。 <pre>JFP% udicm create /usr/lib/mle/ja/cs00/cs00_m.dic cs00_u.dic cs00_u.list</pre>
関連項目	mdicm(1), udicm(1)
診断	<p>kkcvtocs00 は kkcvc から cs00 へのユーザー辞書の継承をその唯一の目的としており、kkcvdicedit により得られた自立語ファイルが入力ファイルとして与えられることを想定しています。そのため、エラー処理は必ずしも厳密ではありません。</p> <p>現在、次のエラーと警告のメッセージが定義されています。</p> <pre>Error: file 入力ファイル <i>filename</i> の <i>number</i> 行目の形式が正しくありません。 <i>filename</i> line この行は無視されます。 <i>number</i>: is not kkcvdicedit jiritsugo format, ignored.</pre>

Warning: file *filename* line *number*:
"Invalid
hinshi(s) have
found. They are
converted into
":UN".

入力ファイル *filename* の *number* 行目に無効な品詞が見つかりました。それらの品詞は ":UN" に変換されます。

名前	jistoec, jistosj, euctojis, euctosj, sjtojis, sjtoeuc – JIS、PC 漢字、日本語 EUC 間のコード変換
形式	jistoec [-8] [-U] [<i>filename...</i>] jistosj [-8] [-U] [<i>filename...</i>] euctojis [-8] [-U] [<i>filename...</i>] euctosj [-U] [<i>filename...</i>] sjtojis [-8] [-U] [<i>filename...</i>] sjtoeuc [-U] [<i>filename...</i>]
使用条件	SUNWjfpu
Description	<p>本コマンド群は、異なるコード規格の文字セットを相互に変換します。コマンド名 [<i>filename...</i>] は、指定されたファイルの内容に対して指定された変換を行い、標準出力に書き出します。</p> <p>ファイルを指定しないと、標準入力から文字を読み取り、変換します。</p> <p>jistoec JIS から日本語 EUC への変換 jistosj JIS から PC 漢字への変換 euctojis 日本語 EUC から JIS への変換 euctosj 日本語 EUC から PC 漢字への変換 sjtojis PC 漢字から JIS への変換 sjtoeuc PC 漢字から日本語 EUC への変換</p>
Options	<p>-8 jistoec、jistosj、sjtojis、sjtoeuc は、SI/SO を使わず、8 単位系 JIS で JIS X 0201 文字集合を処理、あるいはこれに変換します。</p> <p>-U 出力はバッファリングされません (デフォルトではバッファリングされます)。</p>
See Also	iconv(1), iconv_ja(5)
Notes	<p>jistoec では、文字集合指示エスケープ・シーケンスとして以下を処理することができます。</p> <p>JIS X 0208 指示 - \E\$B、\E\$(B、\E\$@ JIS X 0212 指示 - \E\$(D JIS X 0201 Roman 指示 - \E(J、\E(H ASCII 指示 - \E(B</p>

sjtojis、euctojis は文字集合指示エスケープ・シーケンスとして以下を出力しません。

JIS X 0208 指示 - \E\$B

JIS X 0212 指示 - \E\$(D (sjtojis では表示されません)

JIS X 0201 Roman 指示 - \E(J

本コマンドは、原則として入力ファイル中の各コードが正しいかどうかの確認は行いません。また PC 漢字との相互変換においては「TOG 日本ベンダ協議会推奨日本語 EUC・シフト JIS 間コード変換仕様」に基づくコード変換は行われません。iconv(1)ユーティリティがこれらの機能を提供します。iconv(1) および iconv_ja(5) を参照してください。

Bugs

JIS X 0212 文字集合が入力された場合、jistosj および euctosj は変換を正しく行えません。euctosj、sjtoeuc、jistosj、sjtojis については、JIS X 0208 1 区 - 84 区だけが変換の対象になります。

名前	jistoeuc, jistosj, euctojis, euctosj, sjtojis, sjtoeuc – JIS、PC 漢字、日本語 EUC 間のコード変換
形式	jistoeuc [-8] [-U] [<i>filename...</i>] jistosj [-8] [-U] [<i>filename...</i>] euctojis [-8] [-U] [<i>filename...</i>] euctosj [-U] [<i>filename...</i>] sjtojis [-8] [-U] [<i>filename...</i>] sjtoeuc [-U] [<i>filename...</i>]
使用条件	SUNWjfpu
Description	<p>本コマンド群は、異なるコード規格の文字セットを相互に変換します。コマンド名 [<i>filename...</i>] は、指定されたファイルの内容に対して指定された変換を行い、標準出力に書き出します。</p> <p>ファイルを指定しないと、標準入力から文字を読み取り、変換します。</p> <p>jistoeuc JIS から日本語 EUC への変換 jistosj JIS から PC 漢字への変換 euctojis 日本語 EUC から JIS への変換 euctosj 日本語 EUC から PC 漢字への変換 sjtojis PC 漢字から JIS への変換 sjtoeuc PC 漢字から日本語 EUC への変換</p>
Options	<p>-8 jistoeuc、jistosj、sjtojis、sjtoeuc は、SI/SO を使わず、8 単位系 JIS で JIS X 0201 文字集合を処理、あるいはこれに変換します。</p> <p>-U 出力はバッファリングされません (デフォルトではバッファリングされます)。</p>
See Also	iconv(1), iconv_ja(5)
Notes	<p>jistoeuc では、文字集合指示エスケープ・シーケンスとして以下を処理することができます。</p> <p>JIS X 0208 指示 - \E\$B、\E\$(B、\E\$@ JIS X 0212 指示 - \E\$(D JIS X 0201 Roman 指示 - \E(J、\E(H ASCII 指示 - \E(B</p>

sjtojis、euctojis は文字集合指示エスケープ・シーケンスとして以下を出力しません。

JIS X 0208 指示 - \E\$B

JIS X 0212 指示 - \E\$(D (sjtojis では表示されません)

JIS X 0201 Roman 指示 - \E(J

本コマンドは、原則として入力ファイル中の各コードが正しいかどうかの確認は行いません。また PC 漢字との相互変換においては「TOG 日本ベンダ協議会推奨日本語 EUC・シフト JIS 間コード変換仕様」に基づくコード変換は行われません。iconv(1)ユーティリティがこれらの機能を提供します。iconv(1) および iconv_ja(5) を参照してください。

Bugs

JIS X 0212 文字集合が入力された場合、jistosj および euctosj は変換を正しく行えません。euctosj、sjtoeuc、jistosj、sjtojis については、JIS X 0208 1 区 - 84 区だけが変換の対象になります。

名前 uum - かな漢字変換フロントエンドプロセッサ

形式 /**usr/bin/uum** [-J | -U | -S | -T] [-j | -u | -s | -t] [-h | -H] [-x | -X]
 [-k *filename*] [-c *filename*] [-r *filename*] [-D *hostname*] [-n *username*]
 [-l *number*]

機能説明 uum コマンドは本リリースから提供されなくなりました。

名前	wnn, wnn8, Wnn8 - Wnn8 日本語入力システム
Description	Wnn8 日本語入力システムは、デスクトップ環境で日本語を入力するための手段を提供します。詳細は Wnn8 のドキュメントを参照してください。

名前	Wnn6 - Wnn6 日本語入力システム
機能説明	Wnn6 日本語入力システムは本リリースから提供されなくなりました。代わりに Wnn8 日本語入力システムが提供されます。詳細は wnn(1) を参照してください。

名前	wnn, wnn8, Wnn8 - Wnn8 日本語入力システム
Description	Wnn8 日本語入力システムは、デスクトップ環境で日本語を入力するための手段を提供します。詳細は Wnn8 のドキュメントを参照してください。

名前 wnn, wnn8, Wnn8 - Wnn8 日本語入力システム

Description Wnn8 日本語入力システムは、デスクトップ環境で日本語を入力するための手段を提供します。詳細は Wnn8 のドキュメントを参照してください。

名前	wnnatod - 日本語 EUC からバイナリ辞書への変換
形式	<code>/usr/bin/wnnatod [-s num] [-R] [-S] [-r] [-N] [-n] [-P filename] [-p filename] [-e] [-h filename] [-v] binary_dictionary_filename</code>
機能説明	wnnatod は、標準入力のテキスト形式辞書 (日本語 EUC) をバイナリ形式辞書に変換します。
オプション	以下のオプションによって、動作を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> -s num 辞書の語数より少し大きい数字を指定します。デフォルトは 70,000 です。 -R 日本語 EUC 形式辞書を逆変換形式辞書に変換します (デフォルト)。 -S 日本語 EUC 形式辞書を固定形式辞書に変換します。 -r 日本語 EUC 形式辞書を変換するときに、読みと漢字を反転します。 -N 辞書のパスワードを「*」に設定できます。 -n 頻度のパスワードを「*」に設定できます。 -P filename 辞書のパスワードのファイル名を設定できます。 -p filename 頻度のパスワードのファイル名を設定できます。 -e 読みと候補が同一の場合 (ひらがなのみの候補)、読みから候補データを検索できるようにします。これにより、辞書のサイズを小さくすることができます。 -h filename 使用する品詞データファイル名を指定します。 -v バージョン情報を表示します。
属性	次の属性については <code>attributes(5)</code> のマニュアルページを参照してください。

属性タイプ	属性値
使用条件	SUNWjwncu

関連項目 `jserverrc(4)`

名前 wnndictutil - 辞書ユーティリティー

形式 */usr/bin/wnndictutil* [-D *jservice_name* | *jservice_name*:*No* | *jservice_name*/*No*]
 [-E *environment_name*] [-v]

機能説明 wnndictutil は、Wnn8 におけるユーザー辞書の編集を行います。単語の登録や削除/編集をはじめ、辞書コンバートなどの機能が搭載されています。

オプション 以下のオプションによって、動作を指定します。

-D *jservice_name* | *jservice_name*:*No* | *jservice_name*/*No*

変換サーバー *jservice* を、起動しているホスト名で、ポート番号を「*No*」で指定します。:*No* と指定すると相対ポート番号となり、*jservice* の標準ポート番号 (22273) に *No* を加えた値をポート番号とします。例えば :1 とした場合は 22274 が使用されます。/*No* と指定すると絶対ポート番号となり、*No* の値をそのままポート番号として使用します。それぞれ省略時は *localhost* の標準ポート (22273) が適用されます。

-E *environment_name*

環境名を指定します。使用中の環境名は *wnnstat* コマンドで確認できます。

-v

バージョン情報を表示します。

属性 次の属性については *attributes(5)* のマニュアルページを参照してください。

属性タイプ	属性値
使用条件	SUNWjwncx

名前	wnndtoa – バイナリ辞書から日本語 EUC 形式辞書への変換
形式	<code>/usr/bin/wnndtoa [-n] [-s No] [-e] [-h part_of_speech_file_name] [-v]</code> <code>binary_dictionary_filename</code>
機能説明	wnndtoa は、バイナリ形式辞書をテキスト形式辞書 (日本語 EUC) に変換します。
オプション	以下のオプションによって、動作を指定します。 <ul style="list-style-type: none"> -n EUC 形式辞書を、読みの「一」、ひらがな(全角文字)、半角英数字 (ASCII 文字) の順にソートします。結果は標準出力に出力します。 -s No No で指定したシリアルナンバーを辞書に付加します。 -e 特殊表現に展開します。このオプションをつけると、スペース、タブなどを 8 進表現に展開します (デフォルト)。 -h <i>part_of_speech_file_name</i> 品詞ファイル名を指定します。デフォルトは、<code>/usr/lib/wnn/ja_JP/hinsi.data</code> です。 -v バージョン情報を表示します。
属性	次の属性については <code>attributes(5)</code> のマニュアルページを参照してください。

属性タイプ	属性値
使用条件	SUNWjwncu

関連項目 [wnnatod\(1\)](#)

名前 wnnenvutil - ユーザー環境設定ユーティリティー
形式 **/usr/bin/wnnenvutil** [-v]
機能説明 wnnenvutil は、Wnn8 におけるユーザー環境設定を行うことができます。
オプション 以下のオプションによって、動作を指定します。
 -v バージョン情報を表示します。
属性 次の属性については `attributes(5)` のマニュアルページを参照してください。

属性タイプ	属性値
使用条件	SUNWjwncx

名前	wnnotow - ユーザー辞書コンバータ
形式	<code>/usr/bin/wnnotow [-i <i>input_file</i>] [-f <i>format_file</i>] [-o <i>output_file</i>] [-l <i>log_file</i>] [-h <i>frequency_value</i>]</code>
機能説明	wnnotow コマンドは本リリースから提供されなくなりました。wnndicutil(1) が同等の機能を提供します。

名前	wnnstat - jserver の利用状況を得る
形式	<code>/usr/bin/wnnstat [-w] [-e] [-E] [-f] [-F] [-d] [-D] [-J -U -S] [-L language] [-V] [-v] hostname hostname:No hostname/No</code>
機能説明	wnnstat は、hostname で示されるマシンで稼動している jserver の稼動状況を表示します。
オプション	以下のオプションにより動作を指定します。 <ul style="list-style-type: none">-w ユーザー名、ホスト名、ソケット番号、環境番号を取り出します。-e 環境番号、環境名、参照数を取り出します。-E 環境番号、環境名、参照数、付属語、辞書数(辞書番号)、ファイル名を取り出します。-f 辞書ファイル ID、種類、場所、参照数、ファイル名を取り出します。-F 辞書ファイル ID、種類、場所、参照数、ファイル名を取り出します。-d 辞書番号、種類、ニックネーム、body、ファイル名を取り出します。-D 辞書番号、種類、正/逆変換、語数、辞書(頻度)ファイル更新の不可、使用の不可、プライオリティー、[ニックネーム]、body、ファイル名、[(頻度:頻度ファイル名)][パスワード、(頻度パスワード)]を取り出します。-U EUC コードで出力します。-J JIS コードで出力します。-S SJIS コードで出力します。-L language LANG 名を指定します。指定した言語に対応する変換サーバーの使用状況を表示します。デフォルトは、ja_JP つまり jserver です。-V jserver のバージョン情報を表示します。-v バージョン情報を表示します。

hostname | *hostname:No* | *hostname/No*

変換サーバーが稼働するホスト名を「*hostname*」で、ポート番号を「*No*」で指定します。:*No*と指定すると相対ポート番号となり、*jserver*の標準ポート番号(22273)に*No*を加えた値をポート番号とします。例えば:*1*とした場合は22274が使用されます。*/No*と指定すると絶対ポート番号となり、*No*の値をそのままポート番号として使用します。それぞれ省略時は*localhost*の標準ポート(22273)が適用されます。

属性

次の属性については *attributes(5)* のマニュアルページを参照してください。

属性タイプ	属性値
使用条件	SUNWjwncu

- 名前 wnnsysenv_client - システム環境設定ユーティリティー
- 形式 **/usr/bin/wnnsysenv_client** [-v]
- 機能説明 wnnsysenv_client は、Wnn8 におけるシステム環境設定を行います。設定した内容は、/etc/wnn 以下のファイルに保存されます。wnnsysenv_client の起動には root 権限が必要です。
- オプション 以下のオプションにより動作を指定します。
-v バージョン情報を表示します。
- 属性 次の属性については attributes(5) のマニュアルページを参照してください。

属性タイプ	属性値
使用条件	SUNWjwnsu

名前	wnntouch - ファイルのヘッダーを書き換えてiノードと合わせる
形式	<code>/usr/bin/wnntouch binary_filename. ..</code>
機能説明	wnntouch コマンドは本リリースから提供されなくなりました。本リリースではこの機能が不要になりました。

名前	xatokx2cvtttool – ATOK for Solaris 環境移行支援ツール (GUI版)
形式	<code>/usr/bin/xatokx2cvtttool</code>
機能説明	<p>ATOK12 および ATOK8 の次の設定と辞書を ATOK for Solaris へ引き継ぎます。</p> <ul style="list-style-type: none">■ 入力および変換の設定 (ATOK12 のみ)■ キーおよびローマ字の設定■ 辞書 (基本辞書セットのみ、またはすべての辞書セット) <p>実行時に表示されるダイアログボックスで、引き継ぐ対象について指定します。</p>
キーとローマ字の設定	<p>キーとローマ字の設定を引き継いでも、ATOK for Solaris で追加された機能については、キーカスタマイズの設定は行われません。</p> <ul style="list-style-type: none">■ ATOK12 から ATOK12 で [現在のスタイル] に設定されていたスタイルが対象となります。スタイル名は「旧スタイル名(ATOK12)」となり、ATOK for Solarisの現在のスタイルに設定されます。■ ATOK8 から スタイル名は「converted(ATOK8)」となり、ATOK for Solarisの現在のスタイルに設定されます。
辞書	<ul style="list-style-type: none">■ ATOK12 から ATOK12 の辞書セットのユーザー辞書がATOK17の辞書にコンバートされ、ATOK for Solarisの辞書セットのユーザー辞書として設定されます。また、辞書セットに設定されていたATOK12の補助辞書がATOK17の辞書にコンバートされ、ATOK for Solaris の辞書セットに追加されます■ ATOK8 から ATOK8 の辞書に登録されているユーザー登録単語が、ATOK for Solarisの辞書セットのユーザー辞書に登録されます。
環境	<ul style="list-style-type: none">■ ATOK12 から rootユーザーで実行します。■ ATOK8 から 引き継ぎたいユーザーで実行します。
ファイル	<code>/usr/bin/xatokx2cvtttool</code>
終了ステータス	<p>以下の終了ステータスが返されます。</p> <p>0 正常終了</p> <p>>0 エラーが発生した</p>
関連項目	atokx2cvtttool(1)、atok12migs(1)、atok12migd(1)